

① スタディツアーの概要

山崎 友子

(災害文化研究会)

三陸沿岸の町、釜石・大槌の寺院・追悼碑・郷土資料館を訪れ、災害（津波災害・艦砲射撃）と闘ってきた歴史と今を見学するスタディツアーとした。日程的には、平日に仕事のある一般会員も参加しやすいように、週末に設定した。当初、20名の参加を予定したが、多くの申込があり、32名（内1名は4歳のお子さん）の参加となった。

当初、吉里吉里駅～釜石駅の乗車を予定した三陸鉄道は、10月に三陸沿岸を襲った台風19号により、線路の路盤流出や土砂流入、のり面崩落など77箇所におよぶ甚大な被害を受け、復旧に時間がかかるため、スタディツアーでは乗車せず、全体会のポスターセッションで、三陸鉄道応援コーナーを設けた。

■行程：盛岡駅西口集合 7:10 → 釜石郷土資料館（艦砲射撃の砲弾を持ち上げ体感 / 「震災甚句」を聞く）→ 釜石駅前・浸水地域・市役所・避難路（ローカルガイドの説明を受け徒歩で辿る）→ 常楽寺前（慰霊堂拝礼 / 前川消防士の体験談）→ うのすまい・トモス（東日本大震災犠牲者慰霊追悼施設拝礼他）・昼食 → 吉里吉里 吉祥寺（高橋住職、碓川氏の講話 / 開山堂拝観）→ 釜石駅 → 風の丘（遠野）休憩 → 盛岡駅西口解散 18:00

■解説：齋藤徳美氏（災害文化研究会顧問・岩手大学名誉教授）が、ツアー全体を通して、東日本大震災による被害、復旧・復興、現在の課題について解説。基調講演の講師である北原糸子氏からは、常楽寺付近の震災時の様子、犠牲者の埋葬の問題について解説があった。

被災した現場には新たに道路ができ、建物が建てられ2011年当時とは変わっている。しかし、その変化の中で震災体験と復興への思いを語る方々のことばは重く、外からの訪問者の目を開かせるものであった。「あの日あの時」家族を失くされたことを語る甚句を作られた藤原マチ子様・北村弘子様は、「もう一つ作る予定です。復興がなったときに、その喜びを唄う甚句です」と言われた。最後の訪問地吉祥寺では、亡くなられた方々の生きた証の入る黄金の位牌がお堂一面に飾られた開山堂の厳かさに圧倒された。最初から最後まで、今被災地に生きる方々の強い思いを垣間見、心揺さぶられる旅となった。



車内で解説する北原糸子先生



吉祥寺本堂前で記念撮影